



# 網走セーリング協会 ”北緯44度”

令和6年秋の叙勲「緑綬褒章」

受章を祝う会



## 創立40周年

網走セーリングクラブ創立44年

オホーツクフリート創立42年

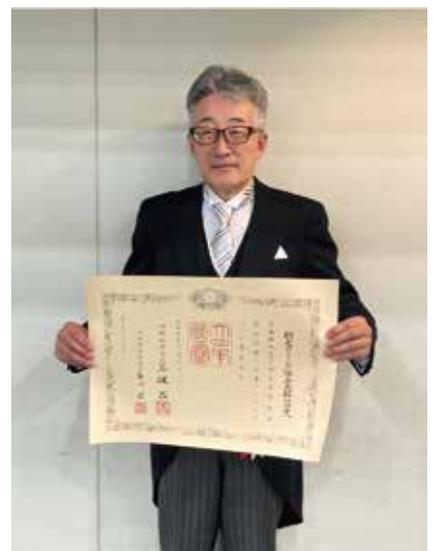
網走クルーザークラブ創立33年

令和6年11月30日

会場 酒菜亭 喜ハ 2階広間



# 令和6年秋の叙勲「緑綬褒章」 受章を祝う会



# 式次第

## 【式典の部】

開会の挨拶 事務局

代表挨拶 網走セーリング協会“北緯44度”  
会長 高田 巧

祝辞 網走市建設港湾部  
港湾課長 澁谷 一志 様

祝電披露 事務局

記念写真撮影

## 【祝宴の部】

乾杯

祝宴

締め 網走セーリング協会“北緯44度”

閉会の挨拶

## ◆網走セーリング協会 `北緯 44 度、の歩み

※発足当時のことは若干不明点があるので間違っていたらお許しください。

- 1980 年 (昭和 55 年) 3 月 9 日 網走セーリングクラブ `北緯 44°、発足式開催。  
ディンギー部会、クルーザー部会で構成させるクラブが発足する。  
初代会長：二本柳均、副会長：大高康夫、理事：小坂繁一、佐藤紀之、  
事務局：平野文昭、監査：菊地莊一、鎌田哲也  
レース委員：平野文昭、番野憲洋、菊地莊一、林俊一、佐々木彰、大高康夫  
安全委員：二本柳均、大谷隆夫  
会報編集：小坂繁一、大島秀昭、吉田重喜 会員数：23 名
- 1982 年 (昭和 57 年) 日本ボードセーリング協会登録「オホーツクフリート」が発足。  
1982 年 (昭和 57 年) 10 月 10 日 第 1 回 網走オープンヨットレース開催 (主催：網走セーリングクラブ)  
女満別湖畔をスタート、呼人浦キャンプ場をゴールのロングレース、優勝者は佐藤紀之田中義隆ペア  
1983 年 (昭和 58 年) 10 月 9 日 第 2 回 網走オープンヨットレース (主催者：網走ヨット協会)  
第 1 回のロングコースが不評だったため、オリンピックコースで 2 R 実施、優勝は札幌の鮫島氏
- 1984 年 (昭和 59 年) 6 月 16 日 網走ヨット協会発足、ディンギー、クルーザー、ボードセーリング 3 団体  
初代会長：小田部善治、副会長：山田享・山口勝由、理事長：二本柳均、監事：鎌田哲也  
代議員：
- 1991 年 (平成 3 年) 9 月 網走クルーザークラブ発足し、網走港係留及び上架用地の会則施行する。  
エクスパリユ、レラ、ソコノケ、ラハイナ、シャローム、チニタの各オーナーで構成する。  
このころから、ソコノケクラブを中心に、港の清掃活動を本格化する。
- 1992 年 (平成 4 年) 8 月 22・23 日 第 11 回レーザー全日本マスターズ開催 47 艇 優勝は高松薫  
北海道道東地域での開催は初となる。主管は日本レーザークラス協会、主催協力は網走ヨット協会、  
大会運営は、オホーツクフリートのメンバーが中心で行った。稲富温泉でレセプション開催。  
当協会理事長二本柳均氏が、日本レーザークラス協会の副会長を歴任。
- 1993 年 (平成 5 年) 9 月 12 日 網走ヨット協会の「レーザー秋の北海道選手権大会」がポンモイ沖で開催
- 1994 年 「海の日」の制定を受け、第 1 回 海でみんなで遊んじゃえ！「オホーツク・海上がっこう」企画実施  
漁港として埋立される前のポンモイ海岸を会場として盛大に開催した。  
ディンギー、クルーザー、ウインドサーフィン、カヌー、スキューバダイビング、波乗りボード、  
フィッシングの 7 コースで 2 日間開催。1 日目の夕方からは盛大なバーベキューレセプションも開催。
- 1995 年 (平成 7 年) 7 月 20 日 国民の祝日として「海の日」が制定。翌年から施行される。  
網走港まつりの花火大会に合わせ、「お花火見会」をチケットを 100 枚限定で発売し、  
ポンポイクラブハウス及び前浜を会場に、お好み焼き、知床焼き鳥、いも餅焼き、焼きそばなど  
ビアパーティー形式で開催する。(※記録に残る写真添付、この年が初回は不明)
- 1998 年 (平成 11 年) オホーツクボードセーリングフェスタポンモイ海岸で開催を最後に中止。  
2001 年 (平成 13 年) 9 月 23 日 ポンモイ湾クルーザーレース 6 艇で開催。
- 2001 年 (平成 13 年) 網走港ポンモイ海岸埋め立て工事始まる。ポンモイ海岸から現クルーザー物揚げ場へ。  
移転補償の問題で、網走市と衝突する。諸々あり、行政関係の役員を改め新体制の協会組織を決議。  
※この移転にまつわるコメントが残っていたので別紙に掲載する。作成者：佐藤紀之  
※2008 年迄、各ディンギーは網走港クルーザー用地斜路を利用して活動していたが、漁船との問題も  
あり、2009 年より現在の呼人浦キャンプ場に活動拠点を移す。
- 2002 年 (平成 14 年) 1 月 5 日 二本柳均氏 ご逝去

2002年（平成14年）6月1日より、網走ヨット協会改め網走セーリング協会を組織。

第2代会長：菊地莊一、理事長：佐藤紀之、

※3団体（セーリングクラブ、クルザークラブ、オホーツクフリート）

2004年（平成16年）7月 知床クルーズ クルザー各艇それぞれ文吉湾クルーズ

2007年（平成19年）7月 知床クルーズ（オーシャン、ういろう、ウインドラヴ、ポンモイ丸）

2010年（平成22年）みなと観光交流センター（網走道の駅）が「みなとオアシス」に登録

この年から、海上がっこうの会場をここに移し、セーリングクルーズを中心に毎年開催

2011年（平成23年）9月4日 網走港湾内でクルザーによる落水者救助訓練実施。

2012年（平成24年）完成した漁組斜路を借りて第30回網走オープンヨットレースをポンモイ湾で開催。

～ 網走オープンヨットレース（毎年）、秋の北海道選手権（隔年）、網走湖で開催

2014年（平成26年）7月25日、北海道開発局海をきれいにする一般協力者の奉仕活動表彰受章

2019年（令和元年）菊地莊一会長が逝去、高田巧を会長代行に

2020年（令和2年）会長を高田巧氏とし、現在に至る

2023年（令和5年）「海の日」海事関係功労者 国土交通大臣賞受賞

### ◆物故者

番野 憲洋

二本柳 均

工藤 健司

佐藤 紀之

加藤 晃俊

寺永 哲

津野 寿則

山崎 雅友

大谷 隆夫

菊地 莊一

黒川 博巳

檜山 義廣

### ◆歴代役員等

	1980年（発足） 網走セーリング クラブ“北緯44度”	1982～1983年 網走セーリング クラブ“北緯44度”	1984年（協会発足） 網走ヨット協会 “北緯44度”	2000～2001年 網走ヨット協会 “北緯44度”	2002年 網走セーリング協会 “北緯44度”	2020年 網走セーリング協会 “北緯44度”
会長	二本柳 均	二本柳 均	小田部善治	小田部善治	菊地 莊一	高田 巧
副会長	大高 康夫	田中 寿隆	山田 享 山口 勝由	山田 享 山口 勝由		
理事長			二本柳 均	二本柳 均	佐藤 紀之	佐藤 紀之
理事 (代議員)	小坂 繁一 佐藤 紀之	加藤 晃俊 小坂 繁一		津野 寿則 黒川 博巳 田原 修	津野 寿則 黒川 博巳 田原 修	佐々木 彰 石橋 司 松林 利晴
会計監査	菊地 莊一 鎌田 哲也	大島 英昭 松井 朝道	鎌田 哲也	菊地 莊一 高野 敏夫	小原 豊 山崎 雅友	西川 順一 (中台明生)
事務局	平野 文昭  会員：23名 ※安全委員に、 大谷隆夫氏	番野 憲洋 久田 勝也  会員：23名	※1982年より 網走ヨット協会を 組織化する？ 正式団体として は1984年から  阿部 恵一 島田 希英  田中 寿隆	榊原 宏洋 (代議員) クルザー ・小原、吉田、村井 セーリングクラブ ・松井、山崎、佐藤、 篠原、清水 オホーツクフリート ・佐々木	榊原 宏洋	松井 朝道 三浦 克之  榊原 宏洋 田原 修



網走セーリングクラブ=44°NL入会案内

網走セーリングクラブは海を愛するヨットマン(ウーマン)の自主的なスポーツクラブで海洋スポーツの振興を通じ地域文化の発展向上をめざして活動しています。

遠い昔より、海は私たちの居る。この海を私たちは突風や南寄りの風との対話を聞いてシーマンシップを育ててきました。北の港湾都市網走に住む私たちにこうした波と風の対話に参加する自然環境にめぐまれています。私たち網走セーリングクラブは「オーホック海にセーリング王国を」と合言葉に豊かな自然との対話とシーマンシップを求めて恒走活動を続けています。

さあ、風に顔をあげ海とにわかれましょう。

水の貯木場に  
1980.2月

入会手続

- ・入会申込書の記入及び提出
- ・入会金  
 オナー会員 4000円  
 会員 2000円
- ・月会費  
 オナー会員 500円  
 会員 250円
- \*入会申込先 〒093 網走市白町1-5  
 TEL 4-1899

平野文昭



網走セーリングクラブ発足

さる3月9日まるせん会館で無争発足することが出来ました。発足入会が早朝からオードブル確保に走り廻り、白鳥コック長鎌田コック、その他マジ馬の見る中でナツさばきもあざやかに無争発会式にこぎつけました。国会審議?にも似た慎重審議が行われ、加藤さん親子のまごやかな発会宣言、息子さんを受験勉強の疲れも見せず元気いはいし、お父さんは息子さんが合格したらヨットを買う約束大変だしきりに息子さんを見る。ハーティの始め自己紹介皆さんの口から、たまされたとか、こいつが、という言葉がしきりに出るようす、やあーヨットで本当にいいですねー、とはテレビの台詞今後とも同会がおおひに発展して行くものと思ひます。

講習会開く

3月23日体育館で会費であ

る二本柳、平野、番野の三代が講師になりヨットの原理、レース規則、ヨットマンシップ、セール各部名称、ロープワークなど熱心に勉強いたしました。なお今回の講習会の参加者が少なかつたのが残念でした。

1980年度行事予定

- 4.6 基礎講習会 理論、常識
- 4.20 " " "
- 6.1 ティンギー教室 ADR
- 6.15 クルサー教室 ASCR
- 7.6 ティンギー教室 ADR
- 7.20 クルサー教室 ASCR
- 7.27 キャンプ + クルーズ
- 8.3 ティンギー教室 ADR
- 8.10 試乗会
- 8.17 クルサー教室 ASCR
- 9.7 ティンギー教室 ADR
- 9.21 クルサー教室 ASCR
- 10.19 表彰式
- 11.2 しまけセーリング(網走湖)

レース委員

平野文昭、番野憲洋、菊地正一、林俊一、佐々木彰、大高康夫

安全委員

二本柳均、入谷隆夫

会報編集

小坂繁一、大島秀昭、吉田重喜

- ・オホツク海をきれいに!
- ・網走にセーリング王国を!!

網走セーリングクラブ会報

北緯 44°

編集・発行 網走セーリングクラブ

発行日 1980年5月30日 第2号

6月1日(日)  
10時貯木場集合

▼また、本年度は、港の改築のため、一時的に、貯木場が、非常に混雑することが予想されます。小型漁船に加えて、作業船も停泊するので、セーリングには充分に神経を使わねばなりません。当クラブとしては、関係諸団体と協議し、安全にセーリングができる水面を確保するとともに、会員相互の安全思想の強化を図るつもりです。

▼待望のセーリングシーズンを迎えました。既に貯木場には、セールがはためりて、本格的な活動に入ろうとしています。そこで、出艇に先立って、石拾いを実施したいと思ひます。周知の通り、貯木場にわずかに残っている砂地から、デンギーを発着するには、かなり苦労します。一個でも多くの石を拾って、安全に発着できるスペースを確保したいわけですね。皆さんの協力を願ひします。

出艇にそなえて  
貯木場の石拾いを

4	クラス名	YN(数)	YN	クラス名	No
---	------	-------	----	------	----

# 非公式 デンギレース off PONMOI

6月22日、南の風、波低し。絶好のレース日より。FCI、ユーホッパー2、ミニホッパーの計4艇。網走はじまって以来の大イベントがポンモイ浜沖でくりひろげられました。カムクリートの破損、フットバンドの着脱等のアクシデントにもめげず、参加艇は、初めてのスクラッチレースに燃えていました。

この日、ピッカ／＼のユーホッパーのスキップは白取氏。この朝、手に入れた念願の彼女にほほの筋肉はゆるみばなしで、「やあ、充実、なんと充実」としきりに連発していました。

レースの方は、ユートもゆるめず、若くあられるヒールボリが印象的でした。彼女を未長く大切に。

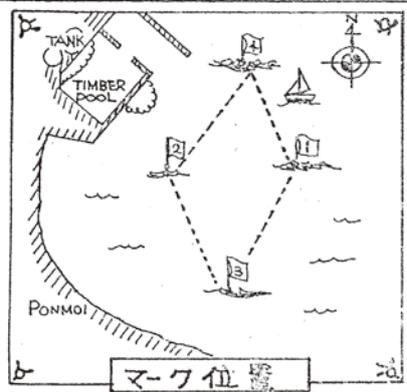
## そのけ丸にベビー誕生

この夜、8時、会場を「テリカッブ」に移し、白取氏の新婚祝賀会がひらかれました。前夜、胸がわくわくしてわづかわれなかつたとか。名前も「そのけベビー」と、親船「そのけ丸」からのゆるいわけ。なにか、4ビッコギヤングが一艇ふえた感じの名前です。

が。みなさんよろしく。他フリートとの対抗レースの代表は「そのけベビー」が手にするよう技術アップに早朝自主トレにはげまそうです。

## マークブイのお知らせ

クラブでは、いつでもセーリングの練習が可能なようにと左図のように4個のマークを打ちましたので利用ください。レース時のマーク回航の順、及び回航方向は、その時の風向に従って船長会議にてコミッショナが指示します。



- ① スタート5分前に準備信号。信号確認の合図(手をあげる)を

## 本年度をふりかえって

今年も無事にセーリングシーズンは陸河童になりました。あの石拾いから早朝セーリング、デンギレース、吹雪の中のセーリング、速く走るもの、遅く走るもの、それなりに一生懸命活動をおえましたね。海、セーリングに新たな喜びを見出した仲間、海、セーリングに知らされた仲間、新人に刺激された仲間も来シーズンにぞなえて着々と準備をしていることでしょう。

来年はデンギ、クルギーとも何艇が増えるので益々活動はさかんになるでしょう。レースはよりシビアに、クルーディングは安全に速く、アタタレースは風は避がイルカのように、来シーズンは楽しみましょう。



## 一九八〇年度の成績

〈第1回デンギレース〉7月

順位	艇名・セーラーNo	クラス名	タイム(秒)	マーク
1	吉野(三三三〇)	シホッパー	42	42
2	林(四〇七七)	シホッパー	42	42
3	大高(一〇八)	K16	41	41
4	吉野(一〇八)	FC	105	103

## 〈第2回デンギレース〉8月3日 (10時15分スタート)

順位	艇名・セーラーNo	クラス名	タイム(秒)
1	佐々木(一〇八)	FC	58分40秒
2	加藤(一〇八)	シホッパー	46分54秒
3	佐藤(一〇八)	ヤマハ13	56分40秒
4	白取	シホッパー	54分8秒
5	大高	K16	53分45秒

## (13時30分スタート)

順位	艇名・セーラーNo	クラス名	タイム(秒)
1	佐藤	ヤマハ13	65分58秒
2	上森(一〇八)	シホッパー	64分7秒
3	白取	シホッパー	64分45秒
4	白取	シホッパー	65分20秒
5	加藤(一〇八)	シホッパー	62分0秒
6	大高	K16	69分55秒
7	久田	FC	83分50秒
8	菊地	シホッパー	46分5秒

〈第1回デンギレース〉10月14・26日の両日、湖荘前の湖面で開催。19日は全くの微風、あくびのようになセーリングにかわって白熱の舌戦が展開された。26日は雨、ほぼあがった正午に開始。時々、弱いブローが吹くだけで今回も耐久レースになった。長いレースを終えて、土曜の上で



## 思い出の ひとこと

1992年(平成4年)8月22・23日  
第11回レーザー全日本マスターズ in 網走 開催  
全国から47艇がポンモイに集結! 優勝:高松薫

オホーック、快晴、高層雲、そして重い秋風が吹き出した。

夏のセーリングは充分ですか?皆さんの所はまだ少し夏はあるのでしょうか、もう少し夏を楽しんで秋のレーザーコンディションに備えてはどうですか。さて先日、網走で開催されたマスターズでのことです。運営はレーザー道東フリート、クルーザー、ボートセーリング、ディンギーで構成する網走ヨット協会です。準備はディンギーが中心にそれぞれの都合に合わせて一つ一つ手を掛け、かに網をはずし、盾の大工仕事、畑でイモ堀等の用意をしてレースを迎えました。全日本上位選手超ベテラン選手がエントリーしているためスタッフは少々緊張して、前日の受け入れ、艇の受け渡し、ウェルカムパーティーと進むうちに予想と様子が違うのです。皆さん非常に楽しそうで笑顔があふれているのです。

レース1日目は5~9m位のコンディション、結構辛い選手がいたのですが、皆さん凄く楽しく嬉しそうなのです。スタッフのボードセーリングの者もレースを心から楽しんでる選手に感激していました。

2日目2~3m風向定まらずコースセットもスムーズではなく苦情がでるような具合、しかし選手に励まされ慰められ、4レースを消化することができました。

そして陸に帰った本部艇スタッフが興奮して、選手が4レースフィニッシュ後、本部艇に近づき「ありがとうございました」「ごろうさまでした」などの一言でレースを終えていきましたと報告してくれました。

全日本で活躍している選手と帆走しなかった者、風が吹けばフィールドへ行きたいボードセーリングの者も、選手が楽しんでいる姿勢、選手同志の思いやり、マナーの良さそして最後の運営スタッフへの心配りでこのレースの運営に携わっていることに深い喜びを抱くことができました。こんなレーザーの仲間を自慢に道内でレースに出場する選手は「ありがとうございました」を心から言えるでしょう。

また、全国の皆さんもレースに、イベントに参加できたなら、進んで楽しみ、喜びを得て、運営して下さった方々に心から一言「ありがとうございました」と……。又、選手、運営スタッフも素晴らしい楽しむことができると思います。最後に、あばしりポンモイ海岸の運営スタッフから楽しいレースを開かせて頂き、そして楽しませてもらい「ありがとうございました」

日本レーザー協会副会長 二本柳 均

## ◆2001年 ポンモイ埋立時の佐藤理事長の陳情コメント

### 網走市のヨットの歴史

#### 人から聞いた話

昔・昔 OKディンギー(木造自作艇、1枚帆、1人乗り)4艇が網走湖で活動

#### 佐藤(私)の記憶

大昔・大昔 昭和40年頃 築港沼に木造(合板製)の小型クルーザーが浮かんだり沈んだりしていました、やがてそのクルーザーは沈みっぱなしに成りました。

昭和49年頃セイリングクルーザー3艇有り

オレンジブロッサム、そのけ、バルーン

ディンギー(1人~2人乗り小型ヨット)

K16、FC、ヤマハ13、シーホッパー、ミニホッパー、等10艇位が活動

昭和52年頃からメンバーが増えてくる

シードスポーツ2艇、ウィンドコール2艇、シーマーチン、シーホッパー、レーザー等々有り、網走湖オープンヨットレースを開催し、各地から参加者が集まるように成る。(小樽・函館・札幌・釧路・根室・紋別・稚内・他)

YSA(ヤマハセイリングアソシエーション)網走フリートを立ち上げ5年ほど活動した。

セイリングクルーザーが増えてくる

J-24、Y21C、Y21RC、Y26C、ソレイユルボン、等有り、年間5レースのシリーズ戦(ロング・ショート)を開催。

道東ヨット連絡協議会を発足する。

稚内・釧路・根室・屈斜路・北見・網走・紋別の各ヨット協会が所属しレース運営の潤滑化の為に活動する。(稚内が脱会して現在に至る)

国体第2部の制式艇としてシーホッパーが採用され、1回目の国体北海道代表に釧路ヨット協会の宮古正選手が出場、その後、網走ヨット協会の篠原選手が選出され出場した。

宮古選手はその後北海道ヨット競技強化宿泊コーチとして活躍した結果、家業のラーメン屋の経営が行き詰まり、ごく最近まで、奥様からヨット禁止令が出ていました。メダシ……

現在ヨット協会の所属団体として、網走クルーザー倶楽部、網走セイリング倶楽部(ディン

# 【港清掃活動】

※写真があるのみを掲載

◆2005年4月



◆2006年4月



◆2007年4月



◆2011年4月



◆2012年4月



◆2013年4月



◆2014年4月



◆2015年4月



◆2016年4月



◆2018年4月 第1回清掃、第2回清掃



◆2022年4月



◆2023年4月



◆2024年4月



◆1995年7月29・30日第1回オホーツク・海上がっこう

▽スタッフミーティング挨拶する小田部会長（ポンモイクラブハウス会場）



▽埋立前のポンモイ海岸



▽レセプション



▽海岸町の前浜で就職の準備



## ◆1995 年頃 AYA 餅つき新年会

▽餅つきする小田部会長・山田副会長、山崎とうさん、二本柳理事長、佐藤さん、檜山さん



▽デヘラー25にて、二本柳さん、山崎親子、工藤さん（1995年）



◆2001年クルザーレースで挨拶をする小田部会長



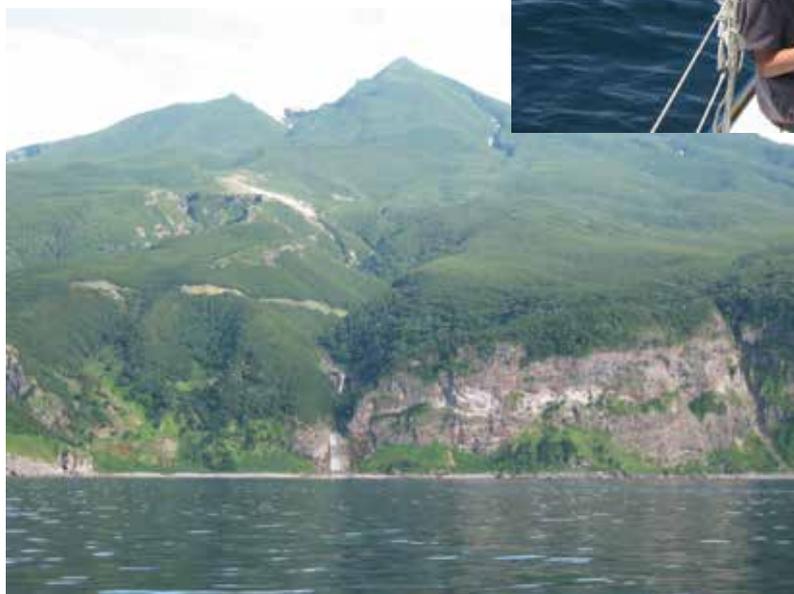
2004/7/18 第10回オホーツク・海上がっこう 実施状況

参加者：午前午後延 20名

スタッフ 14名



◆2006年7月クルザー5艇で知床文吉湾クルーズ



◆2010年クルーザーレース中にミンククジラの群れと遭遇



◆2011年 落水者救助講習開催



◆2011年7月 ポンモイ埠頭に豪華客船「飛鳥II」入港



◆2012年7月、第30回 網走オープンヨットレース (ポンモイ海岸)



◆2013年 海上がっこう



◆2013年頃 係留風景



この年代は、8 艇前後のクルザーが係留し、クルザーレースや知床クルージングが盛んにおこなわれていた。

## ◆北海道開発局賞、国土交通大臣賞受賞

▽2014年7月25日 海をきれいにするための一般協力者の奉仕活動表彰



▽2023年7月26日「海の日」海事関係功労者国土交通大臣表彰





シーマンとして大きな声で挨拶を交わしましょう！

マナーと安全を心掛け、セーリングを謳歌しましょう！

ゴミは持ち帰り、きれいな海を守りましょう！